



『“新しい地域スポーツ”の価値創造基盤の構築』 大学によるコンソーシアム事業推進と中学校部活地域移行トライアル

実施概要と目的

① 地域スポーツイベント・講座の推進と自走化 (課題①②)

「誰もが、あつまり、ともに、つながる」新しい地域スポーツ文化の醸成 (全10事業)

② 中学校部活動地域移行福大型トライアル事業 (課題③④)

- 指導者養成研修会、マッチングシステム構築
- 集合型(合同練習)と派遣型の併用実践

③ 学校教育(小学生体力向上・体育授業)支援 (課題⑤)

- 公立小・中学校教員向けの実技研修会(市内全校参加)
- 小学校体育授業支援の実施と評価

地域が抱える課題

- ① 福岡市の人口増加(162万人超)に伴うスポーツインフラ・施設や場の慢性的不足
- ② スポーツをする機会と場、指導人材の不足
子ども対象、社会人対象、中高年対象、障がい者対象のスポーツ参画人口拡大のための具体策不足
- ③ 中学校部活動の週末地域移行問題への対応遅れ
指導員、支援員の養成(指導人材の発掘)、場所の確保、経費負担問題
- ④ 部活動指導者の人材不足と質の保証
指導者養成システムや研修内容の未整備、マッチングシステムの未整備
- ⑤ 小学生の体力低下に対する市内小・中学校教員向け研修機会の不足
小学校体育授業への具体的支援(効果的な教材、指導法の伝達)不足

活用した大学スポーツ資源

本事業は、大学の以下のスポーツ資源を活用して実施。

■ 福岡大学スポーツ・健康まちづくりコンソーシアム

大学が中心となり、自治体、企業、地域スポーツ団体が一体となった共同体(令和4年度設立)
参画機関と連携し事業を展開

■ スポーツ科学部所属教員

高度なスポーツ指導法や知見を持つ研究者が所属

■ 小・中・高校の教員を目指す学生

教員養成コースを設置
毎年多数の教員採用者を輩出
教員、指導者養成拠点としての高い評価

■ 学生会体育部に所属する44部、約2,000人の運動部員

全国的にも上位に位置する高い競技レベルの学生アスリートが多数在籍

■ 福岡大学キャンパス

ワンキャンパスに集約された最新鋭のスポーツ施設群(体育館、室内プール、各種専用グラウンドが隣接し、地下鉄などの利便性が高い)

実施体制図



実施した具体的な事業

事業1

[地域課題①②]

大人の“rugby amusant”教室(継続事業)

昨年好評であった、大人のラグビー教室を5回開催。今年度はワールドカップの開催時期と同時期に行ったこともあり、ワールドカップの解説も交えながら、企業やスポーツ団体と連携して実施した。参加者からは、手厚い指導で最高に楽しい、良い運動の機会になったなどの感想が寄せられ、社会人のスポーツ機会や場の提供、コミュニティの創出に繋がった。



事業2

[地域課題①②]

親子でやろう剣道体験教室 親子でバスケ(新規事業)

親子参加型イベントを初めて実施。親と子が一緒に楽しめる企画としてどちらも大盛況であった。親子と一緒に参加することで、スポーツにより親しむことができ、スポーツの素晴らしさを感じるきっかけ作り、スポーツ人口の拡大に繋がった。



事業3

[地域課題③④]

中学校部活動地域移行トライアル事業 指導者養成研修会・集合型部活動を実施

福岡市城南区の6つの中学校を対象に、部活動地域移行トライアル事業に取り組んだ。教員や指導者を対象とする本学の学生120名を対象に、指導者養成研修会を開催。オンライン研修も受講した学生を指導者として、複数の中学校部活動を集め、大学の施設で行う「集合型」部活動を行った。中学校から延べ630名の部活動生が参加し、学生から指導を受けた。参加した部活動生とその顧問、指導した学生から高い評価を得た。



事業4

[地域課題⑤]

教員向け指導者研修・体育授業支援

小・中学校、特別支援学校の教員約200名を対象とした「体力向上のための指導者向け研修会」を教育委員会と共同で開催。大学教員の研究成果に基づく効果的なトレーニングを教育現場に広げ、子どもたちの体力向上を目指す取り組みである。また、本学教員、教員志望学生、外部講師協力のもと福岡市内の小中学校にて体育授業支援を実施。コーディネーション運動を取り入れ、子どもたちのメンタルストレスの軽減や認知機能の向上に繋がった。



結果・成果

・スポーツ参画人口の拡大(場と機会の創出)

各種スポーツイベントを実施し、「誰もが、あつまり、ともに、つながる」地域のスポーツ文化を醸成した。

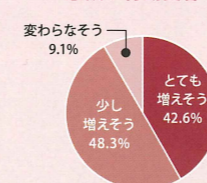
・中学校部活動週末地域移行の実現

指導者養成研修会、マッチングシステム構築、集合型(合同練習)と学生派遣型部活動支援を実施し、部活動の地域移行に取り組んだ。

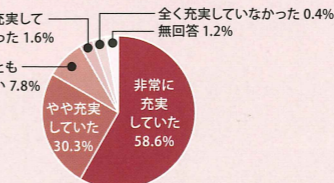
・小学生の体力向上に貢献

市内小・中学校教員への研修会、市内小学校への体育授業支援を行い、指導者研修、子どもたちのメンタルストレスの軽減や認知機能の向上に繋がった。

今後のスポーツ参加に関する意欲や行動変容率



普段の部活動と比べて充実していたか(生徒)



出典：本事業におけるアンケート結果より

総括・今後の展望

① コンソーシアム事業の拡大と自走化の推進

今後は一般社団法人FUスポーツコミュニティが運営の主体となり、コンソーシアム事業の自走化を軌道に乗せていくことになる。経済界や行政・自治体とのさらなる連携を深めていく。

② 中学校部活動地域移行 福大型モデルの確立

大学スポーツ資源を活用した集合型(合同練習)と派遣型部活動支援のトライアル事業は、全市内や全国への横展開の可能性が高い。

③ 小学生の体力向上への具体的施策

市内小学校・中学校全校への研修会開催も、教育委員会等と連携し、継続性を持って展開していきたい。

VOICE 連携団体より

区内の市立6中学校で本事業に参加しましたが、生徒、教員の満足度の高さから、共に生徒のスポーツの未来を開拓する事業だと確信しました。

福岡市立友泉中学校
校長 宇都宮 淳



産学官連携により、沢山の笑顔を見ることができました。今後も地域の方々とスポーツを通じて明るい未来を創造していきたいです。

一般社団法人 Azure sky
代表 築城 昌拓

